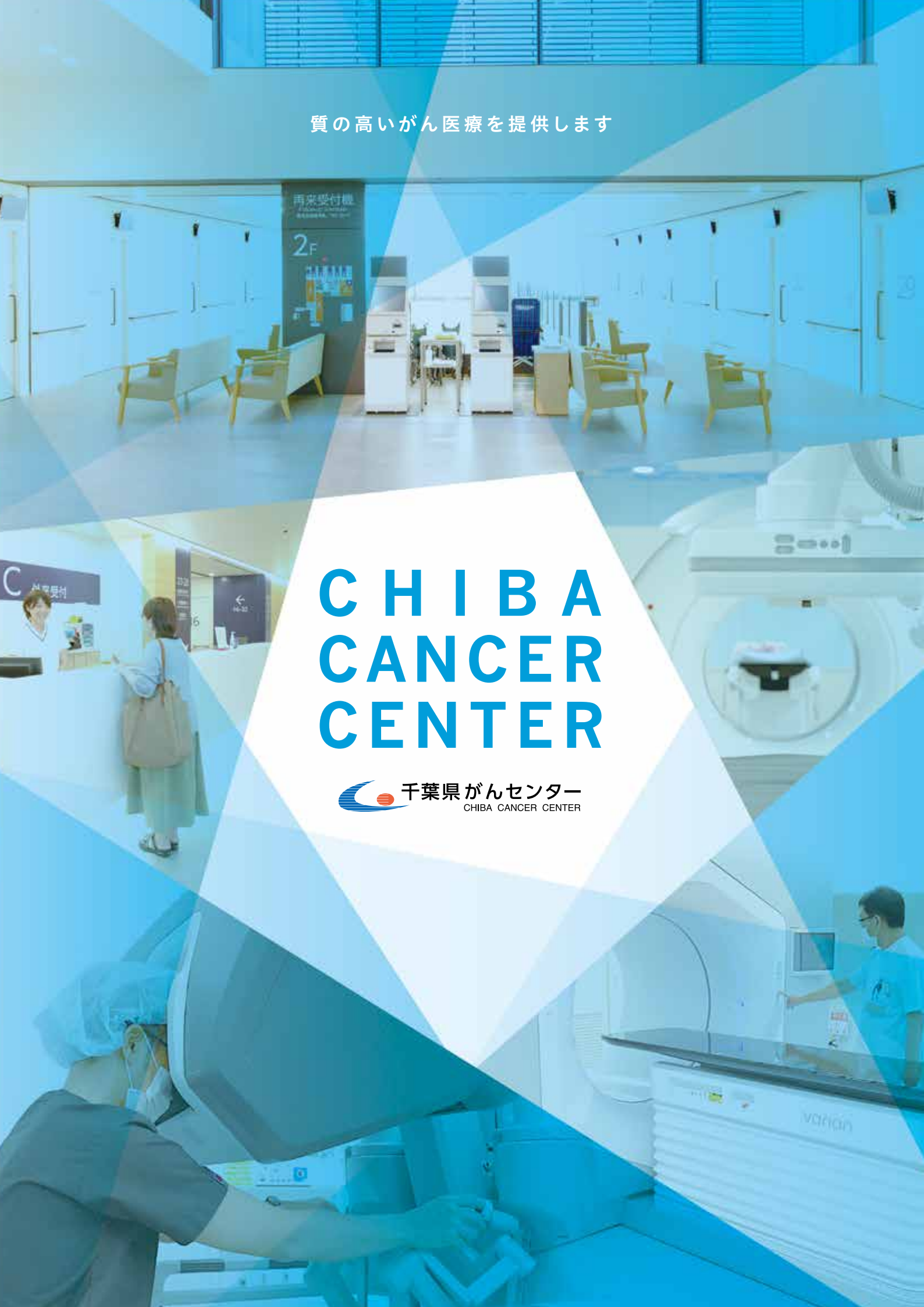


質の高いがん医療を提供します

CHIBA CANCER CENTER

 千葉県がんセンター
CHIBA CANCER CENTER



高度化、複雑化する、 がん治療の 拠点として

千葉県がんセンターでは、県内のがん医療をリードする
都道府県がん診療連携拠点病院として
質の高い医療サービスを提供してまいります。



当センターは、
日本医療機能評価機構によって
認定を受けています



Contents

都道府県がん診療連携拠点病院	2
がん診療	4
外来診療	8
入院環境	10
看護	12
緩和ケア	14
地域医療連携	15
教育研修	16
研究	18
概要・病床数・職員数等	20
学会等認定施設・沿革	21

基本理念

私たちは、
心と体にやさしく希望の持てるがん医療を提供します。

基本方針

1. 安全で最適な医療を提供します。
2. 患者さんにわかりやすく説明し、患者さんの自己決定権を尊重します。
3. 新しい医療の研究開発を行い、高度先進的な医療をめざします。
4. 誠実で思いやりの心を持つ医療者を育成します。

患者さんの権利と責務

患者さんの権利

- 小児の患者さんも含めて、ひとりの人間としての尊厳と権利が守られます。
- 平等で良質な医療を受けることができます。
- ご自身の診療について十分な情報を得ることができます。
- 説明を聞き、治療方針を自ら選択、決定することができます。
- 診療録の開示を請求することができます。
- セカンドオピニオンを求めることができます。
- 患者さんの個人情報保護されます。
- 医療や病院に対する苦情を申し出ることができます。

患者さんの責務

- ご自身の病状や健康状態に関する情報を正確に提供してください。
- 当院の規則を遵守してください。
- 迷惑行為を慎んでください。
- 医療事故防止および院内感染防止のための取り組みにご協力ください。
- 医療費は速やかにお支払い下さい。

病院から患者さんへのお願い

- 将来のがん医療発展のため、臨床研究にご協力をお願いいたします。
- 優秀な医療者を育てるため、教育、研修にご協力をお願いいたします。

病院長あいさつ

千葉県がんセンター
病院長
藤里 正視



千葉県がんセンターは2022年、創立50周年の節目を迎えました。それに先立ち、2020年10月、地下1階、地上9階建ての新病院も開院し、千葉県がん医療の拠点としての重責をここで担って行くのだという覚悟を新たにしております。

新しくなったがんセンターでは医療安全に十分な配慮を行いながら、がん患者の皆さんに新しい医療技術を提供できるよう取り組んでおります。手術治療の分野では、ロボット手術の機器を整備して体の負担の少ない手術や難度の高い手術にも積極的に取り組んでいます。放射線治療の分野では最新のIMRT(強度変調放射線治療)に対応した機器を導入しました。がん薬物療法の分野では免疫チェックポイント阻害薬などの新しい治療薬に対応し、外来でも安心して治療を行えるがん薬物療法センターを拡充しました。同時にごんゲノム医療拠点病院として最新のがんゲノム医療、遺伝医療も提供しております。さらに県民の皆様への要望に応え、千葉県では唯一となる温熱療法(ハイパーサーミア)も導入するなど充実したがん医療を提供しております。

またがん治療中から痛み、吐き気などの身体的苦痛や不安、不眠など様々な苦痛を和らげ、がん治療に集中できるように緩和ケアセンターやがん相談支援センターを整備しました。

残念ながらがん治療が行えなくなった場合でも公的病院では日本最大の病床数を持つ緩和ケア病棟や自宅で療養するための支援など充実した患者さん支援体制も整えております。

一方で私たちが最も大切にしていることはスタッフの接遇です。新人スタッフの教育はもちろん、既存のスタッフにも共同意思決定(Shared decision making: SDM)の推進を行うなど「心と体にやさしく希望の持てるがん医療」という理念に恥じない医療を提供できるよう日々努力しております。

千葉県のがん医療をリードする都道府県がん診療連携拠点病院として、これからも皆様の声に耳を傾け、使命を果たしていきたいと考えておりますので、深いご理解と温かいご支援をお願い申し上げます。

Designated cancer hospital

都道府県 がん診療連携拠点病院

患者さんの心と体を支援する体制を充実させ、
最高のがん医療の提供に努めます。



患者総合支援センター(がん相談支援センター)

「がん」に関わるさまざまなご相談をお受けします。病気に関することや経済的な問題だけでなく、不安な気持ちや心のつらさなど、専任の相談員が対応しています。専任の相談員は、がん医療における基礎研修を終了した「がん専門相談員」です。看護師、医療ソーシャルワーカーで構成しています。



患者総合支援センター

セカンドオピニオンセンター

セカンドオピニオンの紹介調整・情報提供などを通じ、患者さんが主体的に医療を選択し、安心して安全で質の高いがん医療が受けられるよう、サポートしています。

患者サロン・にとな文庫

がん患者さんやご家族同士が交流できる場所です。同じ立場だからこそ分かり合えること、支えられることがあります。

多数の図書も用意しております。患者さんやご家族のため、専任の図書館司書が知りたいことの検索をサポートします。



患者サロン・にとな文庫(患者図書室)

緩和ケアセンター

「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「緩和ケア病棟」などを統括しており、がん診療のさまざまな場面で、入院治療、外来通院を問わず、緩和ケアを切れ目なく提供します。痛みがあったり、がんと診断されて不安で眠れなくなったりといった患者さんやご家族の苦痛を、心身ともに和らげるお手伝いをすることで、安心してがん治療を受けられるようにサポートします。



千葉県がんセンターは、都道府県がん診療連携拠点病院として厚生労働省から指定されています。

医療安全に関する部門の更なる充実を図り、専門的ながん診療を行う医師・薬剤師・看護師等をはじめ、全職員を対象とした職員研修を実施することで、安心安全な医療の提供に努めています。また、がん治療に関する各種情報提供、心の相談や他の病院への相談(セカンドオピニオン)にも積極的に支援を行っています。さらに、がんゲノム医療拠点病院、小児がん連携病院にも指定され、患者さんへの個別化医療を推進してまいります。これからも、患者さんの目線に立った医療サービスを心がけ、多くの方から信頼される病院として更なる発展を目指します。

診療体制

臓器別診察階体制により、質の高い医療を提供します。

診療部門

- 食道・胃腸外科
- 肝胆膵外科
- 消化器内科
- 乳腺外科
- 呼吸器外科
- 呼吸器内科
- 循環器内科
- 腫瘍・血液内科
- 頭頸科
- 脳神経外科
- 婦人科
- 泌尿器科
- 整形外科
- 形成外科
- 遺伝子診療科
- 緩和医療科
- 精神腫瘍科
- 歯科
- 皮膚科

診療サポート部門

- 画像診断部
- 内視鏡科
- 放射線治療部
- 核医学診療部
- がん薬物療法センター
- 輸血療法部
- 手術管理部
- 集中治療部
- 臨床検査部
- 臨床病理部
- 遺伝子診断部
- 薬剤部
- 感染管理部
- リハビリテーション科
- 栄養科
- 看護局

その他の部門

- 医療の質・安全管理部
- 経営戦略部
- 治験臨床研究センター
- 患者総合支援センター
- 地域医療連携室
- 入退院支援室
- がん相談支援センター
- セカンドオピニオンセンター
- 地域統括相談支援センター
- 緩和ケアセンター
- 前立腺センター
- 乳腺センター
- サルコームセンター
- 栄養サポートチーム(NST)
- 感染防止対策チーム(ICT)
- 褥瘡対策チーム

研究所

- がん治療開発グループ
- 発がん研究グループ
- がんゲノムセンター
- がん予防センター

事務部門

- 管理課
- 医事経営課

High-quality cancer care

千葉県がんセンター
手術室

手術支援ロボット

患者さんの傷を小さくすることで体への負担をできるだけ少なくし、また合併症のリスクを減らし術後の回復を早める治療を低侵襲手術と呼びます。手術支援ロボットは低侵襲手術を実現する機械であり主に泌尿器科で使用されてきましたが、現在当センターでは2台体制で食道胃腸外科、婦人科、呼吸器外科でも使用できる体制を整えています。

がん診療

最新医療機器と最新の治療法を駆使して、がんの征圧に臨んでいます。



医療の質・安全管理部

医療の質・安全管理部は、医師、薬剤師、看護師の3職種が専従し、医療安全管理活動を行っています。職員からの報告を分析し、事故の発生や再発の防止に向け改善を図るとともに、院内各部署の安全活動を支援しています。



手術管理部

手術管理部では、日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医・日本専門医機構専門医の麻酔科医が全身麻酔管理を行っています。全身麻酔を受けた後の患者さんは、集中治療室に入室し、生体モニターの完備された環境で、安全な術後の時間を過ごすことができます。



強度変調放射線治療 (IMRT)

腫瘍の複雑な形状に合わせ治療範囲内の放射線量(線量強度)を変化させることで、重要臓器の被曝を可能な限り避けることにより、従来法よりも副作用を減らすことができます。



Angio-CTシステム

世界初のAngio-CTシステムを導入。CTの3次元画像とAngioのリアルタイム透視画像が同時観察でき、4次元的なインターベンションが可能です。AngioとCTを分離しても、使用可能です。



画像診断部

画像診断部ではCTやMRIなど最新鋭の機器を用いて人体内部を画像化し、経験豊富な専門医が診断の手助けを行っています。県立病院群の中では、常勤の放射線診断専門医がいるのは当センターだけです。また、血管造影の技術を生かした治療(インターベンショナルラジオロジー)等も担当しています。



核医学診療部

核医学診療部は、PET/CT装置とガンマカメラ(2台のうち1台は最新のSPECT/CT装置)による診断を行っています。PET/CTではFDGという薬剤を用いて、腫瘍の存在や活動性をCT画像上に表示することができます。ガンマカメラによる核医学検査は、腫瘍の検出や臓器の機能を評価する検査を広範に実施可能です。



放射線治療部

放射線治療部の特徴は、最新の放射線治療装置を駆使した強度変調放射線治療(IMRT)と脳や体幹部の定位放射線治療(SRT)です。新病院開院に伴い、新型リニアック2台(Varian社 TrueBeam 1台、Halcyon 1台)を導入し、移設したTrue Beam 1台と共に3台体制でより多くの高精度放射線治療を提供します。



内視鏡センター

内視鏡科および消化器内科スタッフが消化器内視鏡検査・治療を担当します。検査においては、画像強調内視鏡、拡大内視鏡に力を入れ、がんの早期発見や精密診断を行っており、治療においては、早期がんに対して、最新の設備で身体に侵襲の少ない内視鏡的粘膜下層剥離術を得意としており、全国有数の治療件数を誇ります。



治験臨床研究センター

臨床研究は当センターの重要な使命の一つです。かつては個々の医師の自助努力で支えられてきましたが、治験の受託、推進には組織的な支援体制が不可欠です。2010年に前身である臨床試験推進部が発足、組織改編、人員配置を経て、現在30名超で200件超の治験、臨床試験を支援する全国屈指の臨床研究支援部門に至っています。



がん薬物療法センター

抗がん薬の進歩は目覚ましく、分子標的薬や免疫療法など新世代の治療薬が次々と開発されています。当院ではこれらをいち早く取り入れ、治療成績を伸ばしています。がん薬物療法センターは通院しながら抗がん薬を点滴する場所であり、全国トップレベルの実績を誇っています。



栄養科

栄養科では手術後、あるいは抗がん剤・放射線治療の影響に応じた食事について、入院および外来でも相談をお受けしています。入院中でも食事を楽しんでいただけるよう、また良好な栄養状態を保つことができるよう管理栄養士が直接うかがって食事の相談をお受けしています。



輸血療法部

2017年度に中央部門として独立しました。厚生労働省発行の輸血に関するガイドラインを遵守し、安全で質の高い輸血医療の提供に努めています。全自動輸血検査システムやコンピュータクロスマッチシステムを導入し、輸血事故を防ぐための細心の注意を払いながら、適合血液製剤の準備を迅速に行っています。



薬剤部

安全かつ高度な薬物療法を患者さんに受けていただくために、全ての一般病棟およびがん薬物療法センターには専任の担当薬剤師を配置し、服薬指導や副作用の確認・対策の説明をしています。外来および入院の注射抗がん薬調製は、安全キャビネットや閉鎖式接続器具を使用して、全て薬剤師が行っています。



感染管理部

それぞれ専門資格を有する医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師からなる感染対策チームを組織し、感染対策全般について活動しています。院内感染のアウトブレイクの防止や発生時の対応、薬剤耐性菌対策、抗菌薬の適正使用推進のほか、がん治療で抵抗力の低下した患者さんへの啓発なども行っています。



臨床病理部

がん診療の基本情報である病理組織診断を5人の病理専門医が担当し、正確で過誤のない診断のため全ての症例を専門医2人以上で診断しています。また、がん遺伝学進歩による診断高度化に対応してFISHやPCRによる遺伝子転座や、PCRによるリンパ腫クローナリティ解析を実施しています。



リハビリテーション科

脳血管リハビリテーション、運動器リハビリテーションに加え、がんリハビリテーションを積極的に実施しています。術前の体力維持や術後機能回復、緩和的リラクゼーションなど各患者さんの状況に応じて対応しています。不定期ですが、音楽療法やアニマルセラピーなども行っています。



臨床検査部

外来採血から結果報告までをシステム化し、検査精度の向上を目指しています。導入されている大型精密機器により血液に存在する細胞の数や種類・血液中の酵素などの各種たんぱく質を迅速に測定が可能です。また、感染症の原因菌の検出や同定には遺伝子検査も導入しています。



遺伝子診断部

がんゲノム医療のコア部門として、がん組織の次世代シーケンス解析(がん遺伝子パネル検査)、DNAメチル化解析、PCR解析、ゲノム情報のバイオインフォマティクス解析により遺伝子変異を診断し、変異に合わせた抗がん剤の選択につなげています。また、血液を解析して遺伝性のがん体質を診断し、遺伝性腫瘍の患者さんとそのご家族等に対して、適切な検診・予防法を提供します。

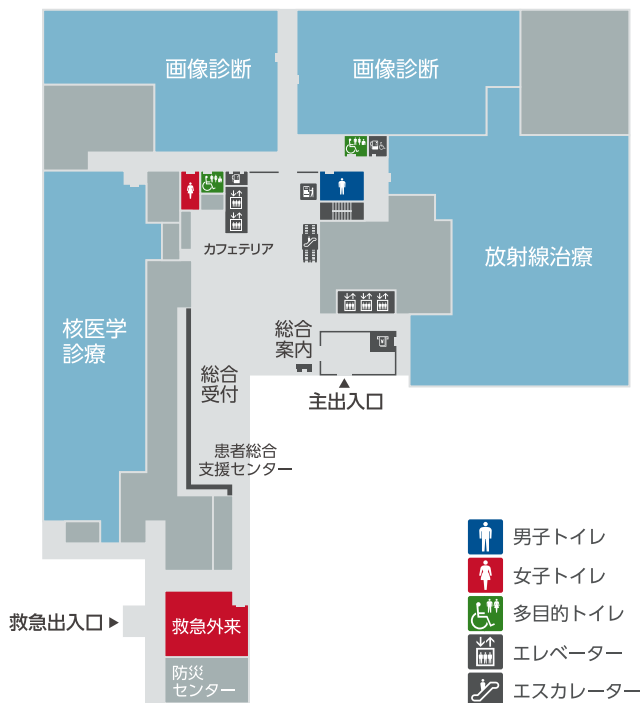
Outpatient care

外来診療

診察・検査・診断し、
その日のうちに
治療方針の決定を目指します。



1F



1階には明るくゆとりのあるエントランス、受付には患者総合支援センターを設置し、多様な職種のスタッフが、患者さんやそのご家族に向き合いワンストップで支援します。

画像診断、放射線治療、核医学などがん治療に不可欠な機能を集約しています。



本館1階 救急外来入口



本館1階 総合受付、会計受付、初診受付等



本館1階 カフェテリア



2F



2階には全診療科の外来診察室がブロックごとに並んでいます。また、内視鏡センターやがん薬物療法センター、検査部門などがあり、外来治療の中心となっています。コンビニエンスストアやレストラン、患者サロンも併設しています。



本館2階 外来診療および待合



本館2階 レストラン



本館2階 コンビニエンスストア



3F



3階には手術室を中心に集中治療室やME室を配置しています。
手術室内には、温熱療法装置(ハイパーサーミア)を導入し、治療の選択肢を広げます。

明るく広いリハビリテーション室等では理学、作業、言語のリハビリテーションや音楽療法も行っております。



20床の無菌室を備える無菌病棟では病棟全体の空気が清浄化されており、抗がん剤治療や造血幹細胞移植をより安全に行える環境が整いました。



5階から9階の病棟には、明るく開放的なラウンジを設置しています。患者さんの憩いの場としてご利用いただいております。

Hospital environment

入院環境

安全と安心を最優先に、
心休まる良質な治療環境を
提供します。



5F - 9F

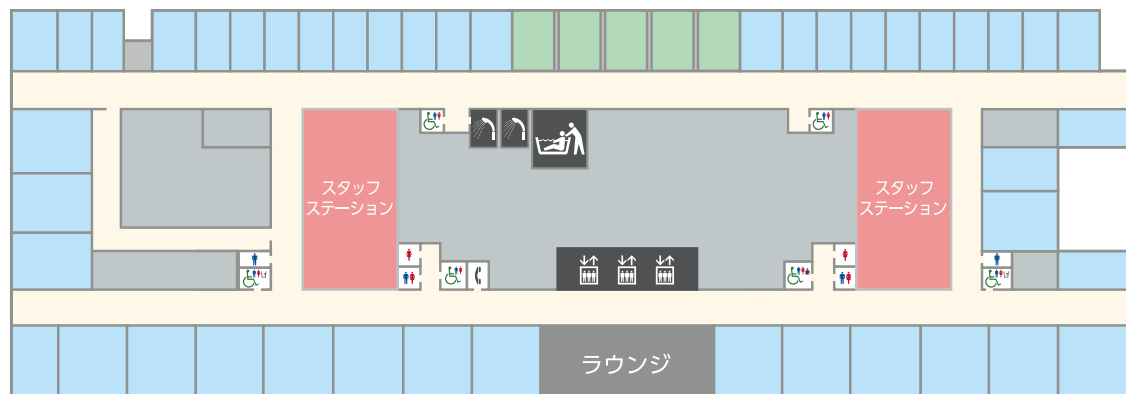


病室



ミーティングルーム

※この図は6Fです



9階 特別個室

5階から9階を病棟とし、5階には無菌病棟、6階にはRI病棟、7階には緩和ケア病棟、9階には特別個室を配置しています。
また、各フロアには開放的なラウンジもあります。
個室は大きな窓で明るく、シャワーやトイレを完備。ベッドは、インテリジェントベッドを採用し、ベッドサイドで患者情報が把握できます。

Nursing

看護

安心・安全ながん医療を、
確かな看護技術で支えます。



「私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します」の基本理念のもと、がん治療の過程の中で生じてくる、患者さんご家族の不安、苦痛、生活への援助などに対応できる専門性の高い看護師によって、やさしさと信頼・心温まる看護を提供しています。



看護局理念

がん看護でとても大事にしていることは、次の4点で、これらは看護局の理念として日々の看護活動の基盤となっています。

1

生きる力と希望

がん患者さんの治療力を引き出し、
生きる力と希望を支えます。

2

自己決定の尊重

がん患者さんご家族の方々の
自己決定を尊重し支えます。

3

QOLの向上

がん患者さんご家族の方々の苦痛を緩和し
生活の質の向上を支えます。

4

人間性豊かな看護

専門技術と生命(いのち)の尊厳が調和する
人間性豊かな看護を提供します。



看護の特徴

1

7対1看護体制

入院患者7人に対して看護師1人以上を配置する体制を全病棟でとることによって手厚い看護を実践しています。

2

プライマリー制

患者さん一人ひとりに担当看護師(プライマリー看護師)がついて、患者さんやご家族の意向を取り入れながら、入院中の看護計画を立ててチームで看護にあたります。

3

緩和医療の早期からの関わり

痛くて眠れない、お腹がはる、吐き気、口内炎等さまざまな苦痛や病気・病状に対する不安に対して早期の緩和医療を行うことで、苦痛を抑え、治療の継続ができるよう支援しています。

4

在宅療養の調整

退院調整を行う専従看護師が患者さん・ご家族の要望を直接うかがい住み慣れたご自宅で過ごせるよう、地域の医院や訪問看護ステーション等と連携し、療養支援を行います。

5

教育体制の充実

新人看護師や各年代別の看護師、看護補助者、クラーク等の看護職員について計画的な研修を実施しています。知識や技術の習得・向上に新人からベテランまで段階的にステップアップできるように教育体制を整えています。

6

がん看護の専門ナースの活動

がん看護の専門ナースは栄養チーム、褥瘡チーム、緩和ケアチーム等に在籍、病棟・外来で横断的に活動し、患者さんへの直接的ケアに加え専門的知識によるスタッフ教育も行っています。

Palliative care

緩和ケア

痛みや呼吸困難・不眠などを緩和し、心地よく過ごせるようサポートします。

全てのがん患者さんやご家族に対して、がん治療の早い段階から、緩和ケアを提供しています。からだのつらさ、心のつらさ、生活にまつわる気付きなど、全人的な苦痛のマネジメントを行い、入院中はもちろん住み慣れたご自宅でも安心して過ごせるよう支援しています。



患者さんご家族のQOL向上のために、音楽療法士などによる音楽療法を定期的に行っています。



緩和ケア病棟では、症状のコントロール、リハビリテーション、在宅医療連携調整などを積極的に行い、ご自宅へ帰ることを一つの目標としています。



Regional Medical Collaboration

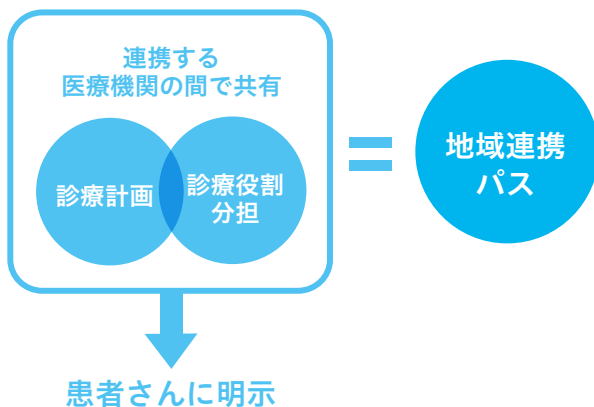
地域医療連携

患者さんを地域で支える
仕組みづくりを推進しています。

地域チーム医療の推進

千葉県がんセンターは、がん患者さんを地域で支える診療体制の構築を推進しています。地域内の医療機関と協力しながら診療機能の分担と有機的連携を行う「地域チーム医療」を展開することによって、がん患者さんに診療の質を保証できる地域連携のシステム作りを目指しています。地域医療連携室は地域チーム医療を実践すべく、医療機関ネットワークの構築と連携の質向上へ向けたマネジメント活動を行っています。

地域連携クリティカルパス



地域連携クリティカルパス

地域チーム医療において、患者さんに連携診療の質と安心を保証するためのツールとして、地域連携クリティカルパスの開発・普及を推進しています。地域内の医療機関と協議し、共同作成した診療計画に準拠したがん患者さんの地域連携を実現しています。地域連携クリティカルパスの開発・運用に当たっては、地域医療連携室スタッフが支援や調整などを行う「地域連携マネジャー」として活動しています。

地域連携コーディネーターの役割

「地域連携コーディネーター」は外来看護師が担っています。パス適用開始時に、患者さんがパスについて理解・納得した上で連携に同意が得られるよう直接的な支援を行っています。具体的には、パスに基づいた共同診療計画の説明や連携先医療機関選定の助言、不安や疑問への対応などです。その際、他院へ連携後も計画に基づいた診療が行われること、再発時は迅速に当センターへ逆紹介されることについて、患者用パスを用いて可視化しながら説明しています。患者さんは連携診療の全体像を理解しやすくなり、安心感につながると考えます。

Education and Training

教育研修

質の高い医療技術者育成のため
教育研修に力を入れています。



看護技術研修(吸引)



フィジカルアセスメント



看護技術研修(採血)



看護技術研修(多重課題・グループワーク)

日々進化する医療レベルに対応し、自らがさらに進歩するために職員全員、あるいは部局ごとに専門的な研修会や研究会等を開催し、各種医療技術の習得ならびに向上を目指しています。また、米国を中心とした海外研修等も積極的に行い、研修医の卒後臨床研修やがん専門医の資格取得を目的とした研修医の他、各種医療関連大学からの学生実習も受け入れています。また、千葉大学大学院医学薬学府・連携大学院講座「分子腫瘍生物学」を開設して学生教育にも取り組んでいます。

一方、研究所では県内の中学・高校生を対象に千葉県夢チャレンジ体験スクールを、また、全国の中・高校生を対象に日本学術振興会主催の「ひらめき☆ときめきサイエンス」を行い科学のおもしろさを感じ、医療・医学研究への関心を深め、将来の医療従事者への動機づけに努めて

います。患者さんや一般の方を対象とした、がんの診断治療に関する県民公開セミナーやがん予防展の開催にも協力しています。

看護局では、クリニカルラダーを採用しており、新人看護師からリーダーレベル、管理者、専門・認定看護師まで段階的にレベルアップできるように教育体制を整えています。ラダーレベルごとに教育研修を実施し、さらにOJTで経験学習を積み重ねていくことで、スタッフの実践能力の向上やキャリアアップを支援しています。また、他施設からの見学研修や、専門・認定看護師教育課程の研修、看護学生の実習、中学生の職場体験なども積極的に受け入れており、さらには都道府県がん診療連携拠点病院として近隣施設に対する教育研修も開催するなど、千葉県全体の看護の質の向上を目指して人材育成にも取り組んでいます。



夏休みサイエンススクール

臨床教育

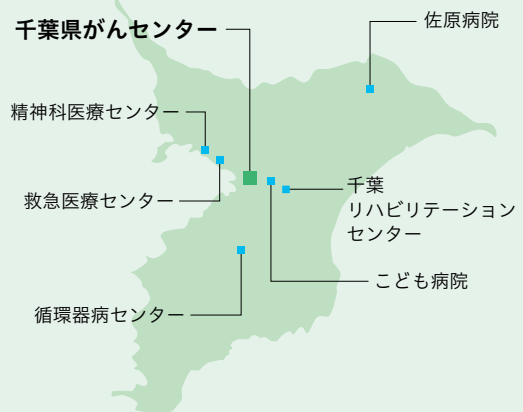
当センターは、安全を基本に心と体にやさしいがん医療の遂行を目指しておりますが、将来の医療を担う医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等の医療技術者の育成にも力を入れています。

従って、当センターでは国の内外から派遣される多くの研修医、研究者、学生などが、臨床の現場に立ち入ることがあることをご理解いただくと幸いです。

千葉県がんセンターを基幹病院とした千葉県立病院群卒後臨床研修プログラムを掲げ研修医を募集しています。研修の概要や募集要項については千葉県病院局の千葉県立病院群臨床研修医制度のホームページ(URL:<https://www.pref.chiba.lg.jp/byouin/rinsho/index.html>)をご覧ください。

医師臨床研修制度

千葉県立病院群(下図)は、千葉県がんセンターを基幹型病院、他の県立6病院、千葉東病院、ジェイコー千葉病院等、複数の中核病院を協力型病院、保健所や地域病院を協力施設として構成されています。



臨床研修医受入実績

千葉県立病院群では、2004年の新医師臨床研修制度の開始と同時に、研修の受け入れを行っており、2020年度までに191名の受け入れを行ってきました。

また、2年間の卒後臨床研修修了後には後期研修先として千葉県立病院群レジデント医としてそれぞれの専門科を学ぶこともできます。

2004年 7名	2011年 15名	2018年 8名
2005年 15名	2012年 8名	2019年 12名
2006年 13名	2013年 10名	2020年 13名
2007年 7名	2014年 13名	2021年 12名
2008年 13名	2015年 8名	2022年 12名
2009年 14名	2016年 11名	2023年 12名
2010年 11名	2017年 13名	



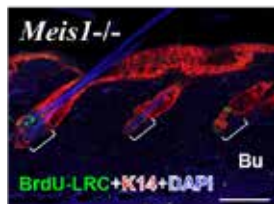
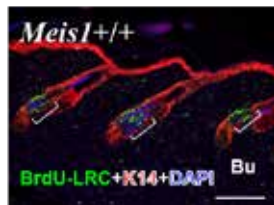
Research

研究

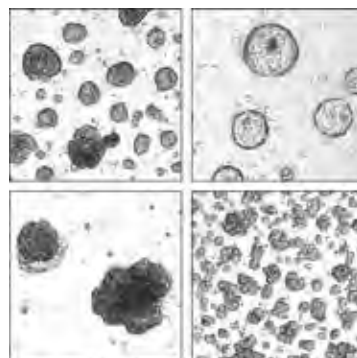
がんの予防・早期発見・治療の研究に邁進し、
成果を千葉県民に還元します。



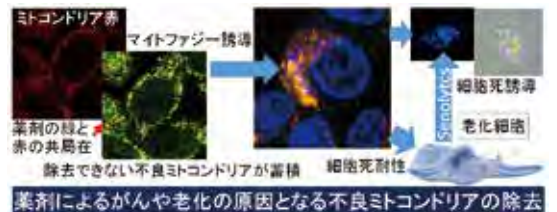
研究所は、がん治療開発グループ、
発がん研究グループ、がんゲノムセン
ター、がん予防センターの4部門で構
成され、医学研究を行うことでがんの
医療を支えています。千葉県の試験研
究機関として先進的な研究と地域を対
象にしたがん予防調査研究を行い、県
民一人ひとりに最適ながん医療が施さ
れ、早期の予防・診断が行われるよう
研究を進めています。近年、創薬開発、
がんの早期診断法の開発、がん患者臓
器の培養、免疫治療の改善などのプロ
ジェクトが日本医療研究開発機構等の
国の助成事業に採択され、さらにがん
ゲノム医療、難治がんや希少がん、小児
がんの発生機構の研究、発がん機構の
解明、免疫応答を利用した治療法の開
発、がんの再発に関わるがん幹細胞の
研究、個々のがんにあった治療選択の
研究、ゲノム化学を応用した創薬開発、
微量血液による診断法の開発、地域の
がん疫学調査研究とその公表そしてが
んの予防を目指した大規模疫学調査な
どを行っています。



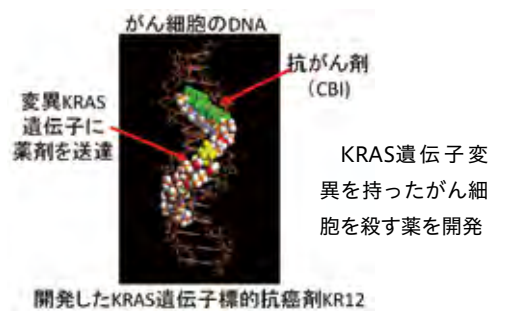
皮膚の幹細胞で大事な遺伝
子が皮膚がんの原因となる遺
伝子だった。



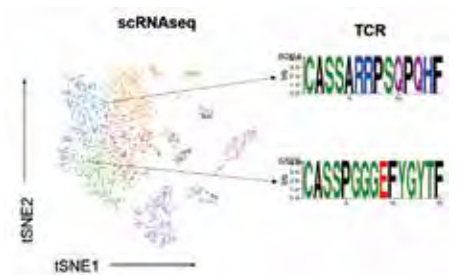
薬の開発段階で薬が効くか判定する
ための新しいモデルの開発



がんや老化の原因となる変異ミトコンドリアを除去し、
がん細胞を殺す薬を開発しています。



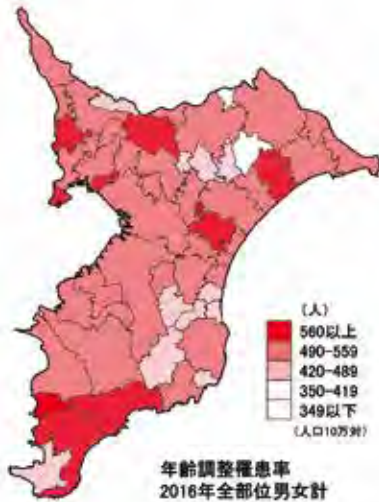
開発したKRAS遺伝子標的抗癌剤KR12



がん浸潤する免疫細胞の特徴を1細胞ご
とに解析しています。

約70%のがん経験者が
5年以上生きられるようになっています。

千葉県のがんの実態を把握するために、県内のがん患者さんを把握する事業も行っています。日本全体でがんの実態を把握することは困難でしたが、平成28年より全国がん登録が法制化され、把握できるようになりつつあります。引き続き県内のがん患者さんを把握し、がんの予防やがん検診率の向上、早期診断に役立てていきます。



子供たちの世代ががんにならないために印西市、我孫子市、柏市、市原市の皆様のご協力でがんの予防を目指した分子疫学調査(J-MICC調査および千葉県がんセンター市原市 分子疫学コホート調査)を行い1万4千人以上の方に参加いただいています。



がんも治る病気になってきています。全国のがん専門病院32施設50万人以上のがん患者さんのデータを収集し、がんの生存率(がんになっても治療できる率)を患者さんが調べられるようにインターネット上にKapWebとして公開しています。このがんの生存率は、世界の米国と同様の治療が行われていることを示しています。

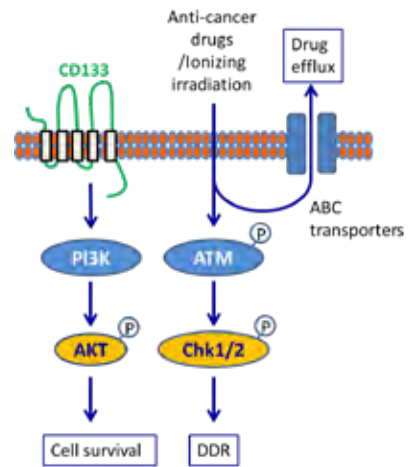
若い大学院生や留学生とともに、
がんの克服に向けて日夜研究に励んでいます。



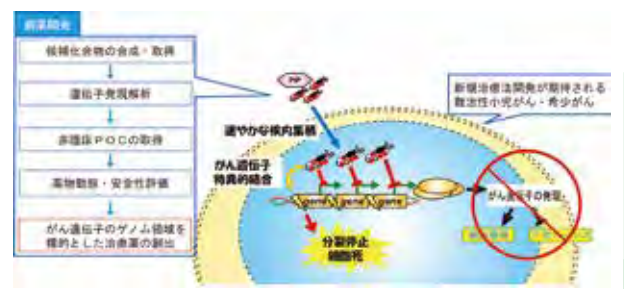
千葉大学大学院医学薬学府の連携大学院として諸外国からも留学生を受け入れ、がんの臨床・基礎研究を行っています。



患者さんの組織、血液等をご同意いただいたうえで、収集保存し、がんの治療法や診断法の開発研究に利用させていただいています。(バイオバンク事業)



がんが、抗がん剤に抵抗性となり生き残る仕組みにおける幹細胞の役割を解明して、抗がん剤からがん細胞が逃げられなくする新しい薬を創っています。



希少がんや治療が難しいがんの新しい治療法開発や診断法に関する研究を行っています。

概要

所在地	千葉市中央区仁戸名町666-2
敷地面積	59,228.55㎡
延床面積	50,917.58㎡ (本館と緩和ケア病棟)
外来駐車台数	外来 270台 (臨時50台)
職員駐車台数	422台 (臨時368台)

病床数・職員数等

病床数	450床 一般病床:358床 HCU病床:16床 非密封線源病床:3床 無菌病床:20床、緩和ケア病棟:53床
職員数	542名 医師89名・看護316名・その他職員 137名

各階配置

			病棟	9 F	
			病棟	8 F	
			病棟	7 F	
			病棟	6 F	
			病棟	5 F	
		医局 看護局	経営戦略部 医療の質・安全管理部 治験臨床試験推進部	事務局 大会議室	4 F
		遺伝子診断部 集中治療室 病理検査部	手術室 ハイパーサーミア室 リハビリテーション室 輸血療法 中央検査室		3 F
2階	渡り廊下(2)	渡り廊下(1) ※	内視鏡センター がん薬物療法センター	外来 患者サロン・にとな文庫 コンビニエンスストア 中央処置室 レストラン 生理機能検査 採血室	2 F
緩和ケア病棟 1階			総合受付 核医学診療 患者総合支援センター	画像診断 カフェテリア 放射線治療	1 F
			薬剤部	ベッドセンター 中央物流センター 病理解剖室 洗濯室 栄養科	B1 F

※渡り廊下で既存棟1階と繋がっています。(既存棟は研究所として整備予定です。)



学会等認定施設

- 1 日本病理学会研修B認定施設
- 2 日本脳神経外科学会認定医訓練施設
- 3 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 4 日本消化器外科学会専門医訓練施設
- 5 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働認定施設
- 6 日本静脈経腸栄養学会 実地修練認定教育認定施設
- 7 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- 8 日本産科婦人科学会専門医専攻医指導施設
- 9 日本整形外科学会認定研修施設
- 10 日本消化器病学会認定施設
- 11 日本核医学会専門医教育病院
- 12 日本呼吸器外科専門医制度認定基幹施設
- 13 日本臨床細胞学会認定施設
- 14 日本乳癌学会認定施設
- 15 日本呼吸器学会認定研修施設
- 16 日本外科感染症学会 外科周術期感染管理教育施設
- 17 日本耳鼻咽喉科学会認可施設
- 18 日本緩和医療学会認定施設
- 19 日本内科学会認定教育病院
- 20 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 21 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 22 日本食道学会 食道外科専門医認定施設
- 23 日本放射線腫瘍学会認定施設
- 24 日本外科学会 外科専門医制度 修練施設
- 25 日本大腸肛門病学会修練認定施設
- 26 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 27 臨床輸血看護師制度指定研修施設
- 28 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 29 千葉県臨床衛生技師会臨床化学部門基幹施設
- 30 日本血液学会認定研修施設
- 31 日本輸血細胞治療学会認定制度指定施設
- 32 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
- 33 日本医学放射線学会 放射線科専門医総合修練機関認定施設
- 34 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度認定 指定研修施設
- 35 日本形成外科学会認定施設
- 36 日本輸血細胞治療学会輸血機能評価制度指定施設
- 37 臨床修練指定病院
- 38 臨床研修指定病院
- 39 日本病院評価機構基準認定施設(3rdG:Ver.2.0)
- 40 日本遺伝性腫瘍学会専門医研修施設

沿革

- | | | |
|-------|-----|---|
| 1962年 | 1月 | 千葉県がん対策審議会から
成人病センターの設置について答申 |
| 1969年 | 9月 | 衛生部にがんセンター建設室設置 |
| 1971年 | 1月 | 建設工事着工 |
| 1972年 | 3月 | 看護婦宿舎完成 |
| 1972年 | 7月 | 本館竣工 |
| 1972年 | 11月 | 千葉県がんセンター開院 |
| 1973年 | 3月 | 医師住宅(木造3戸、鉄筋16戸建て1棟)完成 |
| 1975年 | 9月 | 看護婦宿舎(増設)完成 |
| 1984年 | 2月 | 千葉県がん対策審議会から
「がんの治療体制の整備等総合的ながん対策の実施」に
ついて建議書提出 |
| 1986年 | 3月 | 昭和60年6月設置の千葉県がん治療体制整備検討委員会から
「千葉県におけるがん治療体制の整備」について報告書提出 |
| 1991年 | 7月 | 東病棟増築および改修工事竣工 |
| 1991年 | 7月 | 看護婦宿舎完成 |
| 1993年 | 5月 | 外来ホール増築 |
| 1997年 | 5月 | がん診療施設情報ネットワークシステム始動 |
| 2006年 | 4月 | 電子カルテ稼働 |
| 2006年 | 8月 | 都道府県がん診療連携拠点病院に指定 |
| 2007年 | 4月 | 日本医療機能評価機構による認定 |
| 2009年 | 10月 | 放射線医学総合研究所と相互協定締結 |
| 2011年 | 4月 | 心と体総合支援センター・臨床研究総合センター・
前立腺センター開設 |
| 2011年 | 7月 | 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入 |
| 2013年 | 11月 | 事務研修棟増築竣工 |
| 2017年 | 10月 | 新病院建設工事着工 |
| 2018年 | 4月 | がんゲノム医療連携病院に指定 |
| 2019年 | 9月 | がんゲノム医療拠点病院に指定 |
| 2019年 | 11月 | 小児がん連携病院に指定 |
| 2020年 | 10月 | 新病院開院 |

Access

病院へのアクセス



お車の場合

- ▶ **東京・船橋方面、木更津・館山方面からは**
京葉道路「松ヶ丘」インターチェンジから
大網街道を大網方面に向かい、約2km走って右側
- ▶ **大網方面からは**
外房有料道路「鎌取」インターチェンジから
大網街道を右折し、千葉方面へ約1.5km走って左側
- ▶ **東金方面からは**
東金有料道路「大宮」インターチェンジを出て右折
約2km先の大網街道を右折し、約1km走って左側

電車の場合

- ▶ **JR千葉駅からは**
[JR千葉駅東口2番バス乗り場から]
誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、
大宮団地(星久喜台経由)行き乗車
→千葉県がんセンター下車(所要時間:約25分、千葉中央バス)
- ▶ **JR蘇我駅からは**
[JR蘇我駅東口3番バス乗り場から]
鎌取駅行き乗車
→千葉県がんセンター下車(所要時間:約16分、千葉中央バス)
[JR蘇我駅東入口から]
千葉県がんセンター、千葉南高校行き乗車
→千葉県がんセンター下車(所要時間:約16分、小湊バス)
- ▶ **JR鎌取駅からは**
[JR鎌取駅北口1番バス乗り場から]
JR千葉駅行き乗車
→千葉県がんセンター下車(所要時間:約13分、千葉中央バス)



北西側から撮影

受診される方は

地域医療連携室

TEL.043-263-4071 (直通)

受付/月～金 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

がんの相談を希望される方は

がん患者相談支援センター

TEL.043-264-5431 (代表)

または

TEL.043-264-6801 (直通)

受付/月～金 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

